

毎日新聞 神奈川県版 2013年6月27日(木)掲載



相武山小で地域 安全マップ教室

横浜、危険な場所
児童がチェック
子供たちが自身が犯罪
が起きやすい場所を確
認する「だいじょうふ」
キャンペーンの「地域



「危険な場所は？」地域安全マップを製作する
相武山小の児童たち

安全マップ教室」(同
キャンペーン実行委主
催)が26日、横浜市港
南区上永谷の市立相武
山小学校(江田久美子
校長、672人)で開
かれた。

4年生17人が参
加。小宮信夫・立正大
教授が「犯罪を起こす
人は見かけでは分から
ず、危険な場所を理解
するのが大切と説明。
「入りやすく見えにく

い」場所が危険だとし
て、ガードレールや塀
がある道路、柵のある
公園などの「安全」「危
険」の見分け方を教え
た。

児童たちはその後、
カメラ係や地図係など
数人1組に分かれてフ
ールドワークに出か
け、立正大学生や東京
海上自動車火災代理店社
員の指導で、現地調査
「安全マップ」を製作
した。

小宮教授は「道路の
勾配があるので子供が
周りから見えにくい場
所がある。しかし、落
書きやゴミがなく地域
の人たちに支えられて
いる感じがした」と話
していた。